



ニラ褐色葉枯病に対する主要品種の感受性 および有効薬剤

高知県農業技術センター **もり森** **た田** **やす泰** **あき彰**
高知県須崎農業振興センター **やま山** **ざき崎** **むつ睦** **こ子**

はじめに

高知県の2019年のニラ栽培面積は約250 ha、収穫量は約14,500 tであり、栽培面積は全国第2位、出荷量は全国第1位となっている。高知県内では、ビニルハウスなどにより周年栽培される圃場が多いが、このような圃場において、2007年ころから葉に淡褐色の斑点を生じる障害や、葉先や葉縁に褐色の葉枯れを生じる障害が見られるようになった(図-1)。これらの障害の原因について調査したところ、*Stemphylium lycopersici*による褐色葉枯病であることが明らかになり、既報の褐色葉枯病

菌(*Pleospora herbarum* (*Stemphylium herbarum*))(三澤, 2009; KUROSE et al., 2015; MISAWA et al., 2016)とは病原菌が異なったことから、本病の新たな病原菌として報告した(山崎・森田, 2016)。高知県における本病の発生は、気温が低下する11~1月ころに多くなるが、発病に及ぼす環境条件や品種間差等が不明なうえ、有効な薬剤もなかったことから、生産現場では防除に苦慮していた。そこで、*Stemphylium lycopersici*によって生じる本病に対するニラ主要品種の感受性および数種殺菌剤の防除効果を調査したので紹介する。



図-1 褐色葉枯病の症状(左:斑点症状, 右:葉枯れ症状)

Susceptibility of Some Varieties and Effective Fungicides Against Brown Leaf Blight of Chinese Chive. By Yasuaki MORITA and Mutsuko YAMAZAKI

(キーワード: ニラ, 褐色葉枯病, *Stemphylium lycopersici*, 品種, 殺菌剤)